

October 4, 1990

Cable No. 1203 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (Briefing for Accompanying Reporters)'

Citation:

"Cable No. 1203 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (Briefing for Accompanying Reporters)'", October 4, 1990, Wilson Center Digital Archive,
<https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/cable-no-1203-ambassador-nonoyama-tadayuki-jordan-minister-foreign-affairs-prime-minister>

Summary:

This briefing for accompanying reporters summarizes Japanese Prime Minister Kaifu's meeting with Iraqi First Deputy Prime Minister Ramadan during Kaifu's trip to the Middle East following Iraq's invasion of Kuwait. During the conversation, Kaifu explains that the entire international community agrees the invasion of Kuwait is unacceptable and Iraq must immediately withdraw its forces.

Original Language:

Contents:

Original Scan
Translation - English



注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。



9

電信写

08-059

大務務 典房
次次 審審長長
臣秘官官審審長長

経外査即 博代表
大大 察位
使使研審準

対文厚情オ
活
審察人儀歴史

報官

長

参政保对旅外

審地中東
参北東西

米長
審一二保地

南長
参一二

審西ソ洋
西東

アア

経途博

経漁国

経エ国
安ネ二

参海 審準

協長
参調技有理

審条協規

審政経人
長 審軍社

科原

参折調
長 安

総番号 R199736

主管

月 4日
平成 2年 10月 5日

ジョルダン 発
本省 着

報 報

外務大臣殿

野々山大使

海部総理とラマダン・イラク第一副首相との会談（同行記者ブリーフ）

第1203号 大至急

1. 4日行われた標記会談に関するワタナベ中近東アフリカ局長のブリーフ概要次のとおり。

(1) 標記会談は4日午前8時より9時45分ころまで王きゆう内で行われた。同席者は先方ハムドゥーン外務次官、ハミド第一政務局長、ラウイギ典長、当方オワダ外審、私（ワタナベ局長）、カククラ・イラク大使である。

(2) 会談要旨

総理より、武力による他国の侵略は認められないのが国際社会の一致した声であること、イラクのクウェイトからの撤退、クウェイト正統政府の復帰、全ての外国人の自由の回復が行われなければならない、そのためのイラクの決断を求める。イラクが右を行つて初めて平和のための話し合いの機会が生まれてくるであろうとの趣旨をくり返し発言。

これに対し、イラク側は (i) クウェイトは歴史的にイラクの領土である、(ii) イラン・イラク戦争後国際的に反イラクのいん謀が起こつた、(iii) 今回の事態の発生後外国勢力のかい入により問題の解決が困難になつた、(iv) この問題以外にも安保理決議があるが解決されていない、パレスチナ問題等も同時に解決されるべきである、との主張をくり返し、また外国人抑留者についても、平和のためのお客であるとの従来の立場を述べることに終始した。

またいずれにせよ政治的対話の道は開いておきたいというのが日・イ両方の立場であるということで会談を了した。

(3) 詳細説明

(イ) 総理より、「日本とイラクの間ではかねてから経済協力、技術協力等の関係があり、イラン・イラク

電信写

戦争も終わり、新たな協力関係を再開するという時に突然イラクのクウェイト侵攻の事態が起こり、自分は現在の事態を大変ゆう慮している。世界が東西対決から戦後の新しいちつ序を模策している時に今回の事態が起こった。国際社会は力で他国をへい合することは容認できないと言っているが、これは国際ちつ序の破かいにつながるためである。まずイラクに対して、クウェイトからの撤退、クウェイト正統政府の復帰、全ての外国人の自由の回復という大きな決断を求めたい。イラクがこれについて決断をして初めて平和のための話し合いの機会が生まれるであろう。」と発言。

(ロ) これに対し、ラマダン副首相より、今日の事件の原因・はい景について事実として知って欲しいとして以下を説明。

(i) クウェイトは歴史的にイラクの一部であつたが、英帝国主義、その後は「ク」政府の立場によつてイラクからとられてしまつた。イラクは、クウェイト独立以来イラク・クウェイト国境を認めておらず、クウェイトはイラクにへい合さるべきことを内外に表明してきた。更にイ・イ戦争の間、クウェイトはこれを利用してイラクから領土をうばおうとさえした。

(ii) イ・イ紛争終結以来、イスラエル・米国、欧州で反イラクキャンペーンが始まつた。例えばイラクの化学兵器、最新兵器の入手の努力、非人道的行為を非難するキャンペーンがあつた。これはその後経済的な反イラク活動にもつながり、石油の価格を下げるという動きとなり、クウェイトもア首連もこれに同調した。イラクにとつてゆい一の収入源は石油であるので、これは大きな問題となり、結局8月2日の事態となつた。

(iii) 8月2日の事件以来アラブわく内の解決の話が進んでいたところに、米国は極めて早く軍の派遣、経済制裁を決めた。これが問題の解決の障害となつてきた。今や事態は世界的な戦争が起こるかもしれないところまで拡大した。非アラブ勢力の軍事的いかくの下で政治的解決をすることはできない。

(iv) これまである国が他国を侵略したことについての安保理決議があるが、これらはいずれも実行されていない。今回の事件とこれらの事件との間ではあまりに国際的な扱が違ふ。

(ハ) さらに「ラ」副首相は次のとおり発言。

(i) 総理は米国人のこう留について述べられたが、この人達は人質とよばれるようなものではない。イラクは反イラク行動をとつている国の人々をこう留者として迎えているが、これは平和的目的のためである。

R199736-03

11

電信写

(i i) いわゆる仏提案をイラクは物事の初まりとして評価している。平和的解決の初まりということでこれをフォローアップしたい。

(i i i) 戦争が起これば極めてひげき的なことになる。米国は最初に戦果を上げるかもしれないが、広く世界において損害をこおむることになる。

(二) 上記に対し総理より次のとおり発言。

(i) 今の話は従来から報告を受け承知しているところである。自分が言いたいことは、新しい国際社会のちつ序の中で、はい景・原因の如何にかかわらず武力によつて二国間の紛争を解決するということは容認できないということである。これは米国のみならず国際社会の立場であることをイラクは理解すべきである。この局面を転換するためには、イラクがクウェイトから撤退し、クウェイト正統政府の復帰を認め、全ての外国人の自由を回復することが必要である。

(i i) 原則は全ての外国人の自由の回復であるが、特に日本人について言えば、彼らはイラクの経済建設・発展に参加してきた人達であつて、こうした人達をこう束束することは認められない。

(i i i) イラクが決断を行つて、国際社会に復帰することで初めて、中東和平の他世界の重要問題について話し合うことができるだろう。

(ホ) 総理より、イラクとの政治対話は本日で終わるものとは考えていない旨発言。これに対し先方も、「政治的対話を続けることを希望する。その政治対話において、イラク人が物資欠ぼうにおちいつている問題、パレスチナ問題その他多くの問題を話し合つて行きたい。イラクは戦争を欲しない。戦争は大きな損害をもたらすためである。」と応答。

これに対し更に総理は、「日本は自らの立場として武力による国際紛争の解決は認められないとの立場を取つている。日本は今日の事態は公正に平和的に解決されねばならないとの立場であり、そのためにできるかぎりの努力をしてきている。特にイラクが国際社会の基本原則に反し、本人の意思に反して外国人をこう束束していることは認められない。クウェイトとの紛争を武力により解決しようとしたことは認められない。全ては8月2日のイラクの行動によつて始まつたことであるから、イラクは国連安保理決議に従つて、8月2日以前の状態に事態をもどすべきである。」旨述べ、会談を了した。

2. 質疑応答の概要次のとおり。

R199736-04

12

電信写

(問) 引き続き両国間で対話を続けるということで合意したと言つてよいのか。

(局長) 合意というより双方ともに今後とも対話を続けることを希望するということである。

(問) イラクがミッテラン提案に言及したとき、海部総理はどう答えたのか。

(局長) 話の大きな長い流れの中でイラクがそれに触れたわけで、これを大きく取り上げたとの感じではなかつた。総理はこのことについて直接は答えていない。

(問) フセイン大統領からの親書やメッセージはいつたか。

(局長) 無い。

(問) ふん囲気はどうだつたか。

(局長) お互いに真げんに話し合つた。

(問) こう留されている日本人について総理は言及されたが、これはイラク在留の日本人を含めてのことか、それともクウェイトにいた人質を対象にした発言か。

(局長) 国の経済建設・発展にこうけんしてきた人達であるという総理の言い方であるが、クウェイト、イラクとはつきり分けているわけではなく、総理の頭の中には全体としてイラクでこう留されている人達のとが頭にあるのだと思う。

(問) 次の政治的対話のタイミングについて話が出たか。

(局長) 具体的な話はない。

(問) イラク側より人質を釈放する等のニュアンスの発言はなかつたのか。

(局長) 全然出ていない。

(問) 総理より病人等の段階的釈放の話はしなかつたのか。

(局長) 出なかつた。

(問) 予定の時間を1時間近くものびたが理由は何か。

(局長) 特別な理由はないが、一つはアラビア語の通訳で時間がかかつたことに加え、話をともかくつくそうということで時間をのばした。

(問) 双方がお互いに言いたいことを言い合つて時間がのびたということか。

(局長) 基本的には双方がそれぞれの立場を述べあつた終始したということである。

R199736-05

13

電信写

(問) 会談は途中中絶があつたのか。

(局長) 無かつた。

(問) 日本の多国籍軍支援につき先方より言及はあつたか。

(局長) 具体的にそれについての言及は無かつた。

(問) 発言時間は日・イ同程度だつたのか。

(局長) 大体おなじくらいであつた。

イラクに転電した。(了)

Telegraphic Copy [blacked out] 08-059

Number R199736

Primary: Director-General for Press and Public Diplomacy

October 4, 1990 [time blacked out]
Sent [from] Jordan

October 5, 1990 [time blacked out]
Arrived [at] Ministry

[to] Minister of Foreign Affairs
[from] Ambassador Nonoyama Tadayuki

Prime Minister Kaifu's Meeting With First Deputy Prime Minister Ramadan (Briefing for Accompanying Reporters)

No. 1203 Top Urgent [blacked out]

1. The main points of Middle Eastern and African Affairs Bureau Director Watanabe Makoto's briefing on the above-mentioned meeting that took place on October 4 were as follows:

(1) The above-mentioned meeting took place from about 8 o'clock to 9:45 in the morning of October 4 in the palace. Present from the other side were Nizar Hamdoon, Deputy Foreign Minister; Abdul Hamid, Director, First Political Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs; and Rau'i [phonetic transliteration, possibly Rawi], Chief of Protocol. Present from our side were Owada Hisashi, Deputy Minister for Foreign Affairs; myself (Bureau Director Watanabe); and Katakura Kunio, Ambassador to Iraq.

(2) Main Points of Meeting

The Prime Minister said that the entire international community agrees that the invasion of another country by military force is unacceptable and that Iraq must withdraw from Kuwait, restore Kuwait's legitimate government, and restore the freedom of all the foreigners. The Prime Minister called on Iraq to make a decision for those purposes. The Prime Minister repeatedly stated that only when Iraq carries out the above-mentioned actions will there arise the opportunity of talks for peace.

The Iraqi side repeatedly argued in response that: (1) Kuwait is historically Iraq's territory. (2) Plotting against Iraq has taken place internationally after the Iran-Iraq War. (3) The intervention of foreign powers after the incident occurred has made settling the issue difficult. (4) Security Council resolutions exist for issues other than this one, but those issues have not been settled and the Palestinian and other issues should be settled at the same time. Also, regarding the detained foreigners, the Iraqi side stated the position that they have been making so far: they are guests for the sake of peace.

Also, the meeting ended with the position of both the Japanese and Iraqi sides being a desire to hear of a path to political dialogue.

(3) Detailed Explanation

(A) The Prime Minister stated: "There has existed between Japan and Iraq for some time now relations that include economic and technical cooperation. With the war between Iran and Iraq over, when it was time to resume new cooperative relations, Iraq's invasion of Kuwait took place. I am deeply, deeply concerned about the present situation. At a time when the world is searching for a new order following the end of

the conflict between East and West and the Cold War, this incident happened. The international community has said that it will not accept the annexation of another country by force, as this would lead to the destruction of the international order. First and foremost, I would like to ask Iran to make a great decision: to withdraw from Kuwait, restore Kuwait's legitimate government, and restore the freedom of all the foreigners. Only when Iraq makes a decision on this will there arise the opportunity of talks for peace."

(B) In response, Deputy Prime Minister Ramadan, saying that he wished the Prime Minister to know the facts about origin and the background of the present incident gave the following explanation:

(i) Kuwait was historically part of Iraq. However, because of British imperialism and after that the position of the Kuwaiti government, it was taken from Iraq. After Kuwait's independence, Iraq did not recognize Kuwait's borders. Iraq asserted within Iraq and abroad that Kuwait should be annexed by Iraq. During the Iran-Iraq War, Kuwait even tried to use the war to seize territory from Iraq.

(ii) With the end of the Iran-Iraq War, there began a campaign against Iraq by Israel, the United States, and Europe. For example, there has been a campaign to criticize Iraq's efforts to acquire chemical weapons and the latest weapons, as well as to criticize Iraq for inhumane acts. This was connected to economic activities taken against Iraq. It became a move to lower the price of oil; Kuwait and the United Arab Emirates went along with it. As oil is Iraq's sole source of income, this became a terrible problem, leading in the end to the incident of August 2.

(iii) Talks following the incident of August 2 to settle the issue within an Arab framework were progressing when the United States very quickly decided to send troops and impose economic sanctions. This became an obstacle to settling the issue. The situation has now expanded to the point that a global war may occur. A political settlement is impossible under a military threat from anti-Arab forces.

(iv) There have been Security Council resolutions on a certain country's invasion of another country, but none of these have been enforced. The international treatment of this incident and these other incidents is too different.

(C) Furthermore, Deputy Prime Minister Ramadan stated the following:

(i) The Prime Minister has spoken of the detention of Americans, but these people are not what one would call hostages. Iraq is hosting those detained from countries that are engaged in actions against Iraq but is doing so for a peaceful objective.

(ii) Iraq appreciates the so-called French proposal as a start. Iraq would like to follow up on this as the start of a peaceful settlement.

(iii) If war should occur, it would be very tragic. The United States may make gains at first, but it would suffer widespread losses in the world.

(D) In reply to the above, the Prime Minister stated the following:

(i) I have been aware of what you have just said from the reports that I have received. What I would like to say is that, in the order of the international community, the settling of bilateral conflicts by military force, whatever their background or origin, cannot be accepted. Iraq should understand that this is the position not only of the United States but of the international community. In order to change this situation, Iraq needs to withdraw from Kuwait, recognize the restoration of Kuwait's legitimate government, and restore the freedom of all the foreigners.

(ii) Restoring the freedom of all foreigners is a matter of principle. Speaking in particular regarding the Japanese there, they are persons who participated in Iraq's economic construction and development. Detaining them is unacceptable.

(iii) Only when Iraq makes a decision and returns to the international community will we be able to have discussions regarding peace in the Middle East and other important global issues.

(E) The Prime Minister stated that he did not think that political dialogue with Iraq was something that ended that day. In reply, the other side responded in saying, "I hope to continue the political dialogue. I would like to proceed in that political dialogue to discuss the issue of the Iraqis who now lack supplies, the issue of Palestine, and many other issues. Iraq does not want war. That is because war will bring terrible losses."

In reply, the Prime Minister further said: "Japan has adopted as its own position that

settling international conflicts by military force is unacceptable. Japan, adopting the position that the present situation must be settled in a just and peaceful manner, is making every effort it can towards that end. In particular, Japan cannot accept Iraq, in contravention of a basic principle of the international community, detaining foreigners against their will. Attempting to settle the conflict with Kuwait by military force is unacceptable. All of this started from Iraq's actions on August 2. Therefore, Iraq should, following the United Nations resolutions, return the situation to where it was before August 2." With that, he ended the meeting.

2. The question-and-answer period was as follows:

(Question) Are you saying that the two sides agreed on continuing the bilateral dialogue?

(Bureau Director) Rather than saying that we agreed, both sides expressed the hope to continue the dialogue.

(Question) How did Prime Minister Kaifu respond when Iraq mentioned the Mitterand proposal?

(Bureau Director) Iraq touched on it in the middle of a long talk, so I did not feel that the Prime Minister addressed it much. The Prime Minister did not directly give an answer regarding it.

(Question) Was there any letter or message from President Hussein?

(Bureau Director) No, there was not.

(Question) How was the atmosphere?

(Bureau Director) Each side spoke seriously to the other.

(Question) The Prime Minister referred to the detained Japanese, but did his statement include the Japanese in Iraq or did he mean the hostages in Kuwait?

(Bureau Director) The Prime Minister spoke of persons who had contributed to the country's economic construction and development but did not clearly distinguish between Kuwait and Iraq. I think that the Prime Minister was thinking, on the whole, of those detained in Iraq.

(Question) Was there talk regarding the timing of the next political dialogue?

(Bureau Director) There was no specific talk about that.

(Question) Was there no nuanced statement from the Iraqi side on letting the hostages go?

(Bureau Director) No such statement came from that side.

(Question) The Prime Minister did not speak of the phased release of the sick and others?

(Bureau Director) He did not.

(Question) What was the reason for the meeting going nearly one hour over its scheduled time?

(Bureau Director) There was no particular reason. One was that it took time for the Arabic interpreting and, in addition, we extended the time, at any rate, in an effort to fully discuss the issues.

(Question) So the meeting was prolonged because each side said to the other what it wished to say?

(Bureau Director) Basically, from beginning to end it was each side stating to the other its respective position.

(Question) Was there a break during the meeting?

(Bureau Director) There was not.

(Question) Was there mention from the other side of Japan's support to the multinational force?

(Bureau Director) There was no specific mention of it.

(Question) Was the speaking time the same for the Japanese and Iraqi sides?

(Bureau Director) It was about the same.

Passed to the Embassy in Iraq.

(End)